

# おお大勝利

平成 24 年度山東サッカー部報第 4 号 (5 月 8 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## そしてそして・・・鶴工に敗れる

4 月 30 日 (月) Y 1 の第 3 節が鶴岡工業グラウンドにて行われました。第 3 節山東の相手は鶴岡工業。昨年の春の Y1 での対決では、(先方から請われて今春より流通経済大学サッカー部に進学した)強力 FW にいいようにやられ、大量失点して、県総体への流れに暗雲立ち込めた記憶が深く残っている。昨年からの因縁を踏まえ、4 月 28 日の夜の席(後述)にて後藤報道局長も、鶴工戦の重要性を選手に説いておりました<sup>1</sup>。山東サイドの誰しも、今年こそ勝ちたい、との思いは強い。しかも、ここまで山東はリーグ戦 2 連敗。何度もここに書いておりますが、山東は 3 年生の引退が早いだけに 3 年生がいるうちにできるだけ勝ち点を稼いでおきたい。他のチームは、2 回総当りのリーグ戦の仕組みを生かし、1 回目の対戦を受けて強化して 2 回目の対戦に臨む、ということが可能なのですが、その時間的余裕を山東は持ち合わせていない。必勝を期して鶴岡に参りました。

山東は、DF で起用されることが多いフィジカル能力の高いポッパーことリョウ<sup>2</sup>を FW にコンバート。粘りはしたものの可能性を感じるシュート数が少なかったここ 2 試合を反省して、前線の活性化を探る。試合が開始されると、最初に流れをつかんだのは山東。バーを叩くシュートも出るなど、「攻撃的に行く」という本日のコンセプト通りの展開。ただ、攻めているようだが、ゴール手前まで迫った決定的シュートはまだ打てていない。前節、山形中央の強力な攻撃をしのぎ引き分けた鶴工の守備力は伊達じゃない、そう感じさせる。そんな展開のなか、中盤で不用意にボールを奪われて受けたショートカウンターにて、サイドを簡単に破られ、プルアウェイの動き(ボールから離れる動き)でファーサイドに回った FW に簡単にマークを外され、ドフリーでシュートを打たれ、あっけなく失点。悪いボールの奪われ方(マークを外せていない味方に対してパスを選択するという判断の誤り)、サイドでのマッチアップの敗北(1 対 1 の弱さ)、ゴール前でマークを簡単に外す軽さ(マークする選手とボールとを同一視野に収める位置を取り続けられないポジショニング

<sup>1</sup> ちなみに、去年や今年よりも戦力が充実していた一昨年にも、Y1 の春の対決にて鶴工に敗れております。

<sup>2</sup> 昨年の部報を精読していない方に説明しますと、昨年のある時期、リョウがアシンメトリーな(左右非対称 asymmetry)髪形をしており、韓流ポップス(K-Pop)歌手のような髪型だ、ということでケーポッパーとゴメが呼んだのが始まり。それを顧問が採用しつつ、面倒なのでケーを抜かしてポッパーと呼ぶようになり、現在にいたっております。

<sup>3</sup>のミス、というか、そういうポジショニングをこれまで身につけてこなかった守備の基礎力の欠如)、逆サイドのDFのゴール前のカバーリングの欠如(CDFがマークを外してしまったのなら逆サイドのバックが危険を察知すべき)、ゴール目の前を横切るボールスピードのないセンターリングに対してチャレンジできないGKの消極性<sup>4</sup>という、悪いプレーが凝縮して現れた失点シーン。本当に本当に、あっけない失点でした<sup>5</sup>。粘るだけでなく点を取りに行こうとしたこの試合でしたが、逆にビハインドになり、苦しい展開に。前半0 - 1。

後半は、サブの選手を複数枚起用し、あの手この手でゴールをこじ開けようとする。だが、ポッパーとゴメが前線で相手に体を預けつつ基点となり、敵陣深くまでボールを運びますが、最後のところで雑なプレーが多く、なかなかゴールネットを揺らすまでは至らない。粘り強く攻め立てるが、相手の守りも粘り強い。そして、鶴工のカウンターは力強い！ボールへの寄せの(山東の)甘さを的確に突き、縦パスにてFWを走らせ、深い位置までカウンター攻撃を許す。同点にしようと攻めてはいますが、点が取れないうちに追加点を奪われかねない、そんな焦りの中、とうとう山東の執念が実を結ぶ時がやってきました！ハムが右サイドを走って大きなセンターリングを上げると、ゴール前でボールがこぼれ、FW起用のポッパーが豪快に上のネットにボールを突き刺す。あのねりョウ君、ゴール目の前でボールがこぼれた「ごっつあんゴール」なのだから、ものすごいコースに決めることはないんだよ・・・正直、彼が打った瞬間、ゴールの上をものすごい角度で外したかとドキッとしました<sup>6</sup>。ともかく、同点。残り時間は10分ないくらい。このままの勢いで逆転ゴールだ、と沸き立つ山東。しかし、選手と同じく顧問も浮き足立ったのが悪かったか。一失点目と同様にカウンターからサイドを破られ、ファーサイドに回った選手をフリーにしてしまい、敢え無く失点。そしてそのまま1 - 2で試合終了。

同点にした段階で引き分けも視野に入れた落ち着いたゲーム運びも「あり」だったでしょう。プロの試合ならそのような指摘も的を射ているかもしれませんが。ただ、Y1にて山東の置かれた状況を考えても、あの流れで勝ちを狙ったことは決して間違いではなかったと思っています。悔やむべきは、堪えきれない守備力の低さ。監督として問われる責は、勝ちに行った積極性(悪く言えば無謀さ)にではなく、守備力を育てられていない所にあるでしょう。鶴工は、去年の戦いを振り返ってみても、ボールウォッチャーになって(ボールばかり見て後ろ・裏・逆の状況を把握できなくて)、ファーサイド(逆サイド)を捕まえきれない山東ディフェンスのウィークポイントを、意識して突いてきていますね。意図した攻撃をモノにできる鶴工(そしてそのように選手を動かせる鶴工ベンチワーク)が一枚上手でした。ともかくも、

---

<sup>3</sup> 同一視のポジショニングと呼ばれたりします。

<sup>4</sup> もしかしたら、ニアサイドにいたDFがクリアすべきところをしなかったのが、GKがセンターリングを横にキャッチしに行けなかったのかもしれませんが。

<sup>5</sup> 鶴工サイドも、あまりに手ごたえのない得点に、すぐには喜ばなかったように見えました(喜んだというより、「あれっ?入った」と拍子抜けした得点だったように見えました)。

<sup>6</sup> 当たり損ねであのコースに飛んだのか、意図した通りボールが飛んだのか、はここで深く追及しないことにします。

なんとも悔しい敗戦でした。あんなに多くの保護者の方、そしてOB会からは清野会長と後藤報道局長が庄内まで駆けつけて下さったのに・・・無念です。

しかし、それでも続く県リーグ。下を向かずがんばります（というか、すぐ地区総体、県総体があり、下を向いている暇はありません）。

## 保護者会歓迎会・激励会 賑やかに挙行さる

4月28日（土）パレスグランデールにて、保護者会主催の24年度新入部員歓迎会および県総体激励会が開催されました。新入生はマネージャー1名を含む合計16名。これで3学年合わせて生徒50名、それに保護者、OB、顧問合わせて、100名をゆうに超える賑やかさ。特に保護者数は60名を軽く超え、これまでで最多かと思われます<sup>7</sup>。OB会から清野会長、後藤報道局長、芹川トレーナー、佐藤剛OBの4名のご臨席を賜り、歓迎会・激励会が賑やかに挙行されました。

坂口保護者会会長から山東サッカー部のサポーターとして活動していく意気込みに触れたお話をいただき、現3年生が2年前書いた入部届けにおける抱負を公開・発表した顧問今野の与太話の後、宴会スタート。会の途中、OB会の皆様と志村顧問に順にコメントしていただいた後は、恒例の生徒による決意表明。2年、1年、3年の順でステージに上がる。2年生は、トップバッターのチクテツの一発芸がまあまあ受けて<sup>8</sup>次につなげる。全体的に無難な内容。1年生は見た目まだかわいい中学生といった印象。例年以上の「幼さ」と感じました（見た目が）。そんな中、シュウタロウが、顧問から早速「ヘタクソ」と言われたが「ヘタクソ」から「ヘタ」へ、「ヘタ」から「ウマイ」へと発展できるよう頑張りたいと述べたのは、とても印象深く残りました。3年生は見た目から3年生。1年生と比べると大人の雰囲気。2年間でこうも変わるものですね。キャプテン・副キャプテンいじりは例年の通り。「女づかいは荒いが彼女にゾッコンなユウロ」となぜかキャプテン・副キャプテン以外をいじったマツモトサンのスピーチと、サッカーに関係ない山東祭の宣伝をした今年山東祭実行委員長のゴメのスピーチが、印象深いです（サッカーに無関係な話ばかり覚えていてすみません）。会の最後は、木村さんによるエールでの締め。毎年のことですが、エールを行う真ん前でご息子が恥ずかしそうにしている姿が顔を綻ばせます。木村さん本当にありがとうございました！！

同会場で行われた二次会も盛り上がりましたが、なかでも一年生の保護者の出席率が

<sup>7</sup> 生徒数を保護者数が上回るということは、いかに両親そろった出席者が多かったか、ということになります。山東サッカー部保護者の夫婦仲の良さに、とても驚きました（保護者の中にいらっしゃる2名のサッカー部OBの方も、夫婦そろっての参加でした・・・秋もぜひお願いします）。

<sup>8</sup> 2年生保護者のバさん（お父さんの方）はとてつもない大笑いをしておりました。以前から感じておりましたが、バさんは感情表現がストレートな方で、（こんな書き方で失礼かとは思いますがもちろん良い意味で）少年の心をもっていらっしゃると思えました。

良く、びっくりしました。一年生の保護者のパワーは、きっと選手に良い影響を与えることでしょう。

今年も県総体に向け、選手・顧問はエネルギーを頂戴しました。保護者会の皆様、ありがとうございました。